

第2章

調査結果の概要

平成30年度から令和5年度の6年間の「教科に関する調査」の結果から、県全体の「学力の伸び」の状況についての分析や、今後の対応策等について掲載しました。

また、参考資料として、児童生徒質問調査の質問項目変更、学習方略や非認知能力の質問項目について掲載しています。

1 「学力の伸び」の状況（平成30年度～令和5年度）

埼玉県学力・学習状況調査の実施は、今回で9回目となりました。今年度の結果から「学力の伸び」の状況やその結果の傾向と対応策をお伝えします。

(1) 「学力のレベル」の経年変化について（平成30年度から令和5年度の6年間）

- どの学年も過去の同学年と同等のレベルに達している。
- ほぼ全ての学年・教科で、学年が上がるごとに着実な「学力の伸び」が見られる。



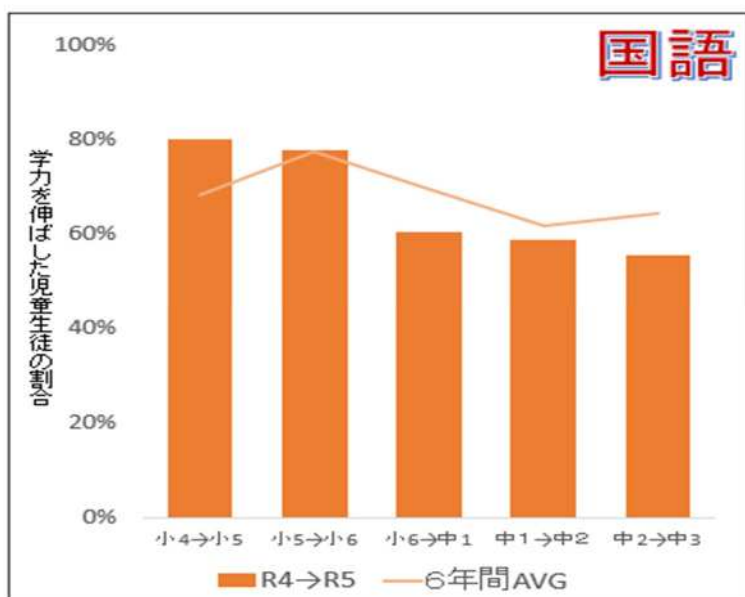
※各学年の学力のレベルは下記の範囲内【36段階（12レベル×3層）】で設定

小学校第4学年	小学校第5学年	小学校第6学年	中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年
1～21	4～24	7～27	10～30	13～33	16～36

(2) 学力を伸ばした児童生徒の割合

〔国語集計結果〕

- 約6～8割の児童生徒の学力を伸ばしている。
- 直近6年間の平均と比べて、小学校第5学年の児童が学力を伸ばしている。一方、中学校第1～3学年の生徒の学力は伸び悩んでいる。



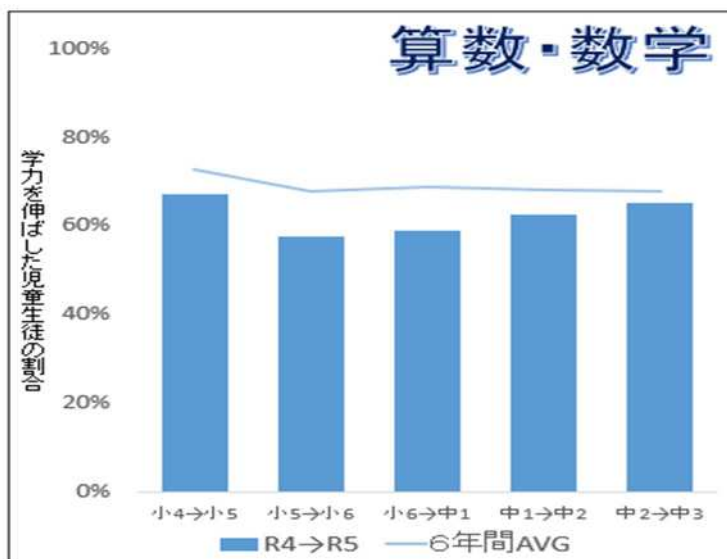
※数値の見方

これらのグラフ及びデータは、前年度と比べて「学力を伸ばした」児童生徒数の受検者数全体に対する割合です。教科ごとに「学力の伸び」が見られた（各学校に送付した帳票01「教科に関する調査 採点結果」にある「昨年度からの学力の伸び」の値が1以上であった）児童生徒数を、受検者数で割った値です。

いわゆる「伸び率」（全ての児童または生徒の「学力の伸び」の値を足し合わせて、受検者数で割った値）ではないことに注意してください。

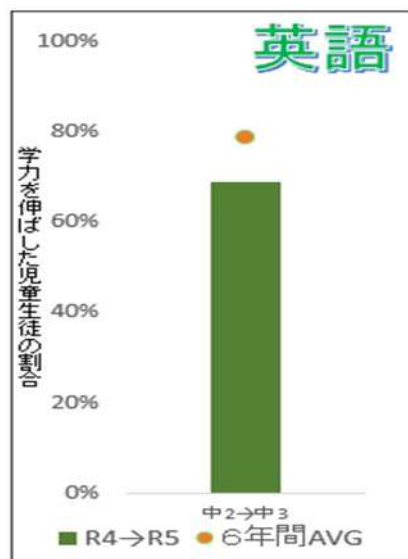
〔算数・数学集計結果〕

- 約6～7割の児童生徒が学力を伸ばしている。
- 直近6年間の平均と比べて、特に小学校第5・6学年の児童の学力は伸び悩んでいる。



〔英語集計結果〕

- 約7割の生徒が学力を伸ばしている。
- 直近6年間の平均と比べて、中学校3学年の生徒の学力は伸び悩んでいる。



対応策

【よい取組の共有】

児童生徒一人一人のつまずきを早期に発見・支援するとともに、学力を大きく伸ばした（学力を伸ばした児童生徒の割合が多い、学力の伸び率が高い）学年や学級を把握し、担当者からの聞き取りや授業参観を行うなど、効果的な取組や工夫を、学校全体で共有し実践する。

【主体的・対話的で深い学びの実現】

本調査のデータ分析結果を踏まえ、質問調査結果における児童生徒の主体的・対話的で深い学びに係る意識や学習方略、非認知能力等の状況を把握した上で、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業の工夫・改善を進める。

【学級経営の充実】

学習規律が定着し、児童生徒同士のトラブルが少ないなど、落ち着いた学級づくりを目指すとともに、保護者や地域の方々が学校の諸活動に積極的に参加できる学校づくりを実践する。

【小中連携の推進】

中学校区内の小・中学校で、接続期における学習内容の変化に対する児童生徒一人一人への手立てを話し合うなど、小中連携を一層推進していく。

教科別授業改善の視点

国語科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

- 小学校では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が高い傾向にあるが、小4・小6は「情報の扱い方、我が国の言語文化」において、小5は「読むこと」において課題が見られた。
- 中学校では、学年ごとで正答率の高い領域と課題の見られる領域が異なる。学年が進むにつれて、正答率が下がる傾向が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

- 「主体的な学び」の実現に向けた授業改善
どのような言語能力を身に付けさせるかを明確にし、児童生徒が学習に見通しをもち、自らの学習を調整しながら主体的に学習に取り組むことができるようにしましょう。
- 「対話的な学び」の実現に向けた授業改善
児童生徒が自分の意見や考えを客観的に捉えられるように、自己との対話や他者と考えを比較検討する際には、本時のねらいに迫る発問や適切な切り返しをとおして、考えを広げ深められるようにしましょう。
- 「深い学び」の実現に向けた授業改善
児童生徒が、既習事項を活用しながら、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高められるようにし、「言葉による見方・考え方」を働かせられるようにしましょう。

算数・数学科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

- 小学校の「数と計算」の正答率が高い傾向にあるが、「図形」では縮図を利用して実際の長さを求めること、「変化と関係」では伴って変わる2つの数量について考察すること等に課題が見られた。
- 中学校の「データの活用」の正答率が高い傾向にあるが、「図形」ではおうぎ形の中心角の大きさを求めることや証明の必要性和意味を理解すること等に課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

- 「主体的な学び」の実現に向けた授業改善
学習する目的を児童生徒に意識させたり、新たな問いを見いださせたり、既習事項との相違に着目させるなどして学習のねらいに迫る課題を児童生徒とのやり取りから設定できるようにし、粘り強く取り組むことができるようにしましょう。また、学習活動を振り返り、次の学習につなげるための支援をしましょう。
- 「対話的な学び」の実現に向けた授業改善
本時のねらいに迫る発問や適切な切り返しを通して、児童生徒一人一人が考えをもつための支援をしましょう。また、問題を焦点化し自己との対話や他者との考えを比較検討するなどして、考えを広げ深めることができるようにしましょう。
- 「深い学び」の実現に向けた授業改善
児童生徒が数学的な見方・考え方を働かせ、既習事項との共通点などを見いだすことにより、統合的・発展的に思考するなどの機会を設定しましょう。また、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動により、数学的に問題発見・解決する過程や結果を振り返らせ、思考や態度の変容を気付かせて価値付け、深く思考等するための支援をしましょう。

英語科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

- 中2・中3ともに、与えられた情報に基づいて、人物の情報を正確に書くことについても課題が見られた。
- 文法事項としては、疑問詞、be 動詞、代名詞などの活用に課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

- 「主体的な学び」の実現に向けた授業改善

単元目標と本時の目標を明確に示して、生徒が見通しをもった学びができるようにするとともに、ここまで学習してきたこととできるようになったことを示し、単元の目標を達成するために本時の学習と既習事項のつながりを意識した授業づくりを実践しましょう。また、自己評価カード等を活用する等、振り返りの時間を十分に確保するなど、生徒が学習活動を振り返り、次の学習につなげるための支援をしましょう。

- 「対話的な学び」の実現に向けた授業改善

言語活動を行う目的・場面・状況や、相手を意識させ、生徒にとって必然性のある活動を設定しましょう。言語活動では生徒の良さや課題を共有する中間指導（活動の間に行う指導）を取り入れましょう。また、個人の活動から、ペア、グループ、一斉という形態の工夫を状況に合わせて設定したり、対話を通して得た情報や表現を活用してより豊かな表現にさせるよう工夫したりして、生徒の考えを広げ深めさせるようにしましょう。

- 「深い学び」の実現に向けた授業改善

生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、相手を意識して自分の考えを文章等でまとめる活動を設定しましょう。また、新出の語彙や文法事項などを日本語や既習事項と比較したり分類したりして、気付きを促したり、振り返りの場面で学習課題をどのように解決したかを考えさせたりするなど、生徒が深く思考等をするための支援をしましょう。

<各市町村教育委員会・学校における効果的な取組例>

【授業改善】

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、市町村独自の授業プラン（授業の流れ、学習の振り返り等）を掲載したリーフレットを作成・配布
⇒教員の指導力の向上、若手教員等の授業改善の指針
- 市町村で学力向上検討委員会を実施し、学力向上の取組について情報交換と共有
⇒学びの質の向上、学力向上に良い取組の共有

【家庭と連携した学習支援】

- 家庭学習ノートを作成・配布し、学校と家庭が連携を図りながら家庭学習を習慣化
⇒子供の学ぶ環境づくり
- 家庭学習の手引き（学習の時間、学習の決まり）等を作成・配布
⇒家庭学習の質の向上

【各市町村教育委員会による各学校への指導・助言】

- 各市町村教育委員会が、各学校へ訪問、県学力・学習状況調査の結果分析を細かくサポート
- 学力を伸ばしている教員の取組を、会議などで積極的に紹介・共有・実施
⇒教員の経験と調査結果に基づく指導、多面的な見方による指導

※ これらの取組は一例です。この取組例を参考に、各市町村教育委員会・学校の実情に合わせた工夫・改善を行い、児童生徒一人一人に応じた指導の充実を図るようお願いいたします。

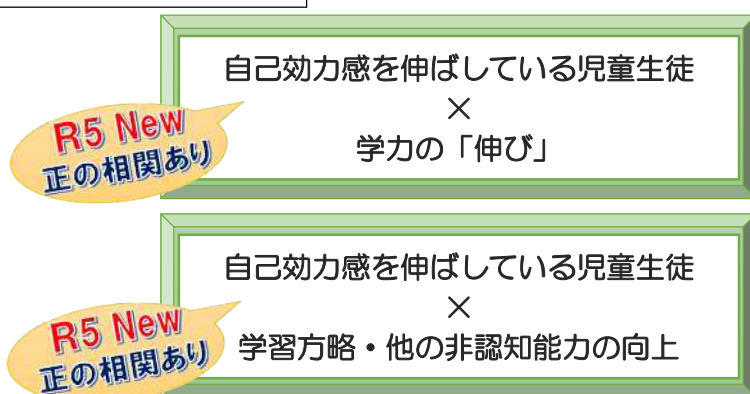
2 学力と質問調査の結果分析について

(1) 非認知能力（自己効力感）と学力

詳細は P19 参照

- 県学調で調査している自己効力感とは、自分がそれを実行できるという期待や自信のことです。
- 令和4年度から、学力との関係でより強い正の相関関係が明らかになっている自己効力感を全学年で調査するように変更したので、今年度から自己効力感の「伸び」が全学年で見られるようになりました。

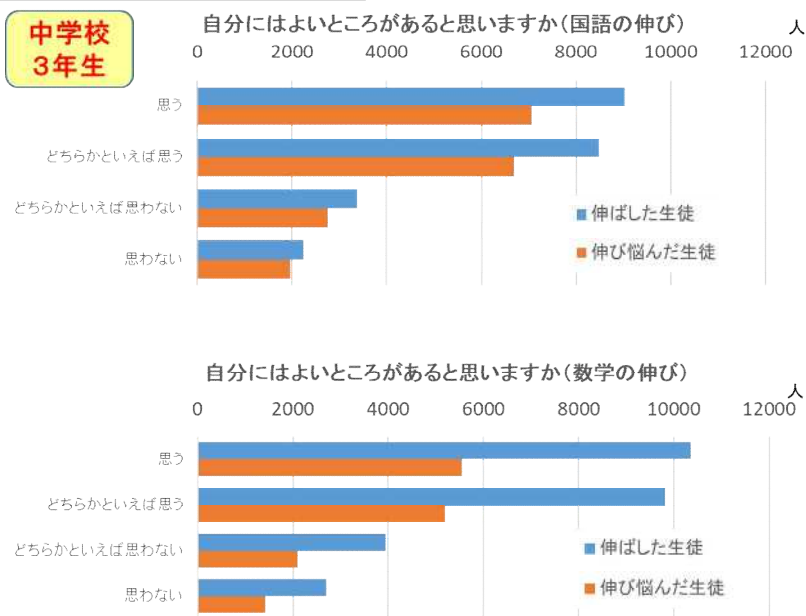
令和5年度調査の分析から



- 過去の分析から、自己効力感とは、学力と強い正の相関があることが分かっておりますが、今回の分析でも、自己効力感の値を伸ばしている児童生徒は、学力も伸ばしており、さらに、学習方略や他の非認知能力も伸ばしている傾向が改めて確認できました。

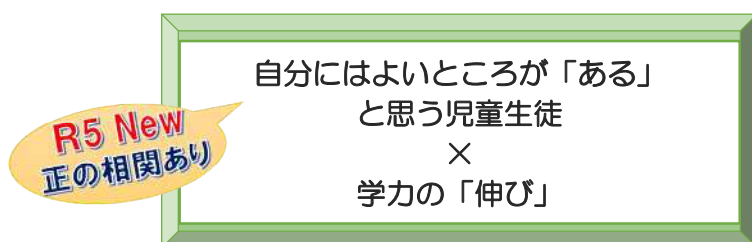
(2) 自分にはよいところがあると思う児童生徒と学力の伸び

令和5年度調査の分析から



- 中学校3年生を例に示しましたが、自分にはよいところがあると「思う」「どちらかといえば思う」と回答した生徒は、国語と数学ともに学力を伸ばしている傾向が見られました。

- この結果から、よいところを自ら認めることができるような取組も効果的であって、お互いのよさを認め合い、尊重し合えるような学級経営が大切であることが、今回、改めて示されました。



【参考資料】非認知能力や学習方略の質問事項

項 目	説 明
学習方略	<p>子供が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）であり、次の①～⑤に分類される。</p> <p>① 柔軟的方略 … 自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動 (例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりする など</p> <p>② プランニング方略 … 計画的に学習に取り組む活動 (例) 勉強を始める前に計画を立てる など</p> <p>③ 作業方略 … ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動 (例) 大切なところを繰り返し書く など</p> <p>④ 認知的方略 … より自分の理解度を深めるような学習活動 (例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など</p> <p>⑤ 努力調整方略 … 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動 (例) 分からないところも諦めずに継続して学習する など</p>
【児童生徒質問の項目】	
柔軟的方略	勉強のやり方が、自分にあっているかどうかを考えながら勉強する 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる 勉強しているときに、やった内容をおぼえているかどうかをたしかめる 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える
プランニング方略	勉強するときは、さいしょに計画をたててからはじめる 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかをたしかめる 勉強するときは、自分できめた計画にそっておこなう 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見なおす
作業方略	勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる 勉強で大切なところは、くり返して書いたりしておぼえる
認知的方略	勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする 勉強していてわからないところがあったら、先生にきく 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する
努力調整方略	学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう いまやっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるためにいっしょうけんめいがんばる 授業の内容がむずかしいときは、やらずにあきらめるか簡単なお題だけ勉強する 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやりつけられるように努力する
出典：心理測定尺度集Ⅳ：子どもの発達を支える〈対人関係・適応〉(2007)、心理測定尺度集/堀洋道監修/サイエンス社	
項 目	説 明
非認知能力	<p>テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものであり、本調査では次の5種類について質問を行っている。</p> <p>① 自己効力感 … 自分はそれが実行できるという期待や自信 (例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など</p>
【児童生徒質問の項目】 自己効力感	出典： P. Pintrich, et al.(1991) A Manual for the Use of the Motivated Strategies for Learning Questionnaire(MSLQ) 令和5年度の全学年に質問 授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う 学校でよい成績をとることができると思う 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっているほうだと思う

② 自制心 … 自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力

(例) イライラしていても人に八つ当たりしない など

【児童生徒質問の項目】 令和5年度の小学4年生、中学校2年生に質問
自制心

授業に必要なものを忘れた
他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした
何か乱暴なことを言った
机・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった
家や学校で頭にきて人やものにあたった
先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった
きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた
イライラしているときに、先生や家の人(兄弟姉妹を除きます)に口答えをした

出典：
Tsukayama, E.,
Duckworth, A. L.,
& Kim,
B.(2013).
Domain-specific
impulsivity in school-age
children.
Developmental Science,
16, 879-893.

③ 勤勉性 … やるべきことをきちんとやることができる力

(例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など

【児童生徒質問の項目】 令和5年度の中学1年生に質問

勤勉性

うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります
ものごとは楽しみながらがんばってやります
自分がやるべきことにはきちんと関わります
授業中は自分がやっていることに集中します
宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします
ルールや順番を守ります
だれかと約束をしたら、それを守ります
自分の部屋や机の周りはこちらかっています
何かを始めたら、絶対終わらせなければいけません
学校で使うものはきちんと整理しておくほうです
宿題を終わらせてから、遊びます
気が散ってしまうことはあまりありません
やらないといけないことはきちんとやります

出典：
Barbaranelli, C., Caprara, G. V.,
Rabasca, A., & Pastorelli, C.(2003). A
questionnaire for measuring the Big
Five in late childhood. Personality and
Individual Differences. 34(4). 645-664.

④ やりぬく力 … 自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力

(例) 失敗を乗り越えられる など

【児童生徒質問の項目】 令和5年度の小学5年生に質問

やりぬく力

大きな課題をやりとげるために、しっばいをのりこえてきました
新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります
きょう味をもっていることやかん心のあることは、毎年かわります
しっばいしても、やる気がなくなってしまうことはありません
少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます
何事にもよくがんばるほうです
いったん目ひょうを決めてから、その後べつの目ひょうにかえることがよくあります
終わるまでに何か月もかかるようなことに集中しつづけることができません
始めたことは何でもさい後まで終わらせませす
何年もかかるような目ひょうをやりとげてきました
数か月ごとに、新しいことにきょう味を持ちます
まじめにコツコツとやるタイプです

出典：
Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M. D.,
& Kelly, D. R.(2007).Grit: Perseverance and
passion for long-term goals. Journal of Personality
and Social Psychology, 92(6), 1087-1101.

⑤ 向社会性 … 外的な報酬を期待することなしに、他人や他の人々の集団を助けようとしたり、人々のためになることをしようとしたりする力

(例) 相手の気持ちを考える、親切にする など

【児童生徒質問の項目】 令和5年度の小学6年生、中学3年生に質問

向社会性

私は、誰に対しても親切にしようとしている
私は、他の子たちと本や遊び道具などを共有する
私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける
私は、年下の子たちに対して、優しくしている
私は、自分から進んで親・先生・友達のお手伝いをする

出典：

Goodman R (1997) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A Research Note. Journal of Child Psychology and Psychiatry, 38, 581-586.

Goodman R, Meltzer H, Bailey V (1998) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A pilot study on the validity of the self-report version. European Child and Adolescent Psychiatry, 7, 125-130.